

(仮称)東近江市 森の文化博物館 基本計画

概要版

令和6年9月策定

写真：鈴鹿10座

東近江市の「鈴鹿の森」

- 本市の主要河川である愛知川は、源流から河口までが市域に含まれ、一つの水系が完結した姿として見る事ができます。この愛知川の集水域は市域にほぼ含まれ、源流部である鈴鹿山脈を本計画では「鈴鹿の森」と位置付けています。

鈴鹿の森のポテンシャル

東近江市の森里川湖の源流部

- 本市では、鈴鹿の森を源流とする愛知川が、里を潤し、琵琶湖に流れ込んでいます。一つの水系が市域で完結する森里川湖のつながりが、多様な自然資源を育んでいます。先人たちはこの豊かな環境を活かして、奥深い歴史文化や伝統を築いてきました。鈴鹿の森は水域、生態系の源であるだけでなく、私たちの生活を支える基盤の源でもあります。

鈴鹿の森の自然と人

- 鈴鹿の森は、動植物の分布上、東・西日本の境界部に位置し、日本海側・太平洋側気候両方の影響を受けています。地質が多様なこと、標高差がもたらす気象条件の変化により、多種多様な植生を有し、生物多様性に富む国内有数の地域です。
- こうした環境に加え、人々が自然資源を持続的に利用し、人の手が適度に加わることで、森は多様な樹種を維持し、それを糧に多種多様な生物が生息し、安定的な生態系が保持されてきました。

鈴鹿の森で育まれた「森の文化」

- 木地師の根源地とされる鈴鹿の森の小椋谷には、惟喬親王を木地師の職祖と仰ぐ伝承や全国の木地師を巡廻し統括した記録等があり、木地師文化が色濃く残っています。また、かつては薪炭製造業や林業が盛んに行われ、茶栽培の伝統は「在来種の無農薬栽培と手摘みの政所茶」として現在も継承されています。さらには、自然と人の営みが織りなす美しい山村景観が広がり、鈴鹿の森では豊かな「森の文化」が育まれてきました。



鈴鹿の森から琵琶湖を望む

鈴鹿の森の変化

社会の変化

- 戦後の拡大造林、高度経済成長、エネルギー革命などの社会変化により、森に対する人々の関心は薄れ、山間部では過疎化や少子高齢化が進み、今まで守り受け継がれてきた伝統や歴史文化が失われつつあります。

環境の影響

- 管理不足の森林の増加や異常気象等により、表土の流出、河床の上昇、地形の変化等が生じた結果、生物多様性の劣化や獣害等の問題が発生しています。

鈴鹿の森と同様の変化が国土全体で起きている

- こうした社会的課題は、鈴鹿の森に限らず世界や国土全体で起きており、真摯に向き合い、持続可能な社会を実現する必要があります。

博物館の“ちから”を活用して創る 鈴鹿の森の未来

東近江市にしかできない政策

- 鈴鹿の森を守ることは、流域全体の環境保全につながり、森と人の共生を目指した取組により、生物多様性に富み、災害が少ないまちになると考えます。また、森林整備によりCO₂を削減し、自然と調和した美しいまちにつながります。
- 東近江モデルとも言うべきこの取組は、鈴鹿の森から琵琶湖まで流域全体が一つの水系でつながり、全国各地で森と共生した木地師文化を育んできた本市でしか実践できないと考えます。

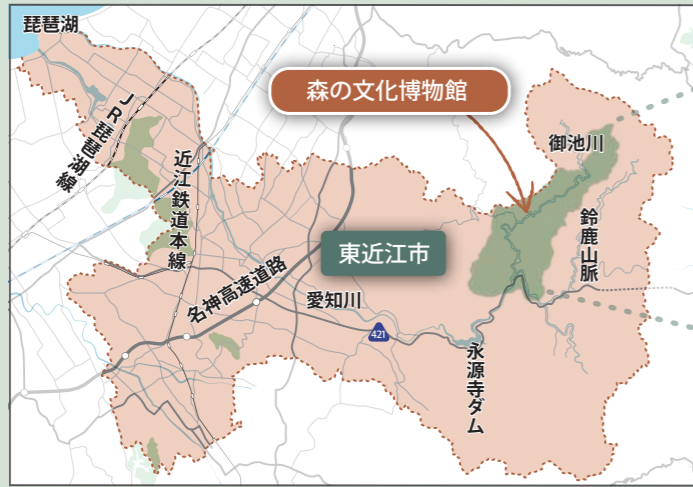
森と人が共生する、持続可能な社会を目指す

- 鈴鹿の森を通じて自然と人の関係を再考し、持続可能な社会づくりを目指すため、(仮称)森の文化博物館を整備します。
- 森の文化博物館は、資料の収集、保存、展示、調査研究だけでなく、情報の共有・発信につなげ、共感と共通理解を醸成します。また、多世代の人をつなぎ、学びを提供するなど幅広い機能をいかして地域社会の課題解決に貢献することにより、森と人の共生関係を創り出します。

「森の文化博物館」とは？

多様な地域資源と一体となった博物館

鈴鹿の森の様々な地域資源が育まれたフィールド全体を森の文化博物館と位置付け、魅力ある地域資源のつながりをいかした多彩な事業をフィールド全体で展開するとともに、森の重要性を発信するなど、森と人の共生関係の再構築につながる博物館を目指します。



森と人とのつながりを取り戻す活動拠点

広大なフィールドをいかし、鈴鹿の森の豊かな自然や奥深い歴史文化について、多くの人が興味を持ち、総合的な学びの場となる活動拠点を設置し、地域資源に誘う取組を創出します。野外空間と一体となった新たな形の博物館で森と人との関わり方を見つめ直し、森と人とのつながりを取り戻す多様な事業を展開します。

社会や地域の課題に取り組む博物館

持続可能な社会づくりの一つのモデルとして、森と人との関係について考え、社会や地域等の課題解決に寄与することを目指します。多様な人々が博物館活動に参加・協働することで、様々な価値観や課題解決方法を共有し、未来の森の文化を創出する取組を進めます。

基本理念

森に学び 共に生きる

基本方針

- (1) 鈴鹿の森の自然と木地師文化をはじめとする歴史文化の調査研究、資料の収集・保存を進め、継承と活用を図る。
- (2) 地域資源を活用した様々な体験・体感を通じて、鈴鹿の森や森の文化への理解を深める。
- (3) 地域資源の魅力共有し、地域に一体感を創出する。
- (4) 森の文化の社会的価値を再発見し、持続可能な社会の創り手を育成する。

フィールドに存在する多様な地域資源が博物館の展示物！

フィールド全体が博物館！

活動拠点の立地場所

自然

鈴鹿 10 座

暖温帯に生育するアカガシと冷温帯に生育するブナの混成林

クマタカ

クマタカ・イヌワシ

クマタカ・イヌワシは鈴鹿の森の生態系の頂点にいます。

ナガレヒキガエル

鈴鹿 国定公園

イワナ

キマダラ ルリツバメ

ヒダサン ショウウオ

炭焼窯跡

歴史文化

政所の茶摘み

小椋谷の能面・能装束

正月神事の供物

日本遺産 「琵琶湖とその水辺景観」 永源寺と奥永源寺の山村景観

蓮谷鉦山跡

君ヶ畑のゴクモリ

黄和田のチンツクリ

林地師文化発祥の地 東近江市小椋谷

カヤバ

木地屋氏子狩帳

事業活動計画（主な取組）

森を調べる・守る

- 調査研究・収集保存事業
- 地域資源に関する調査研究、専門家や研究機関等との連携
 - ・テーマ…鈴鹿の森の自然と歴史文化、木地師文化等
 - ・研究成果の公開
- 地域の資料や情報の収集・記録
 - ・無形民俗文化財の映像記録化
 - ・収集資料のデジタルアーカイブ化
 - ・収集施設等の整備と資料の保存・管理
 - ・地域の資料館等の維持管理支援

森に触れる・学ぶ

- 学習・体験事業
- 拠点施設での展示公開
 - ・鈴鹿の森の自然と歴史文化をテーマとした分かりやすい展示
- 鈴鹿の森の自然と歴史文化に触れる機会や学ぶ環境の確保
 - ・森林環境学習事業との連携
- 森林の社会的価値の創造、発信
 - ・アーティストインレジデンス事業
 - ・研究機関や高等教育機関等の誘致
 - ・森林資源を活用した事業の推進

人と人がつながる

- 人と人をつなぐ交流事業
- 鈴鹿の森ににぎわいと交流を生み、文化の創造と地域活性化を目指す
 - ・森の文化に触れる体験型イベント
 - ・地域ストーリーの創造と周遊ルートの整備
- 新たな生活様式や文化を創造する取組に踏み出すきっかけづくり
 - ・森林資源を活用した新たな文化創造
- 木地師ネットワークの構築・強化
 - ・木地師作品の紹介
 - ・全国の木地師集落データベース化

未来をつくる

- 地域と未来を担う人づくり事業
- 地域資源の魅力や価値を伝え、地域や森づくりを担う人を育てる
 - ・地域マイスター発掘
 - ・森林の専門家養成事業支援
 - ・博物館サポーター体制の構築
 - ・デジタル技術による関係人口創出
- 本市の知名度向上やブランド化、地域活性化につながる取組の支援
 - ・地域産品の紹介、販売
 - ・エコツーリズムの推進体制づくり
 - ・企業研修やイベント利用への協力

森里川湖をつなぐ

- 森里川湖発信事業
- 森里川湖のつながりをいかした取組の推進
 - ・博物館連携による展示の実施
 - ・愛知川の生態系調査
 - ・森里川湖のつながり体験プログラム
- 鈴鹿山脈から琵琶湖まで森里川湖がつながるエコツーリズム支援
 - ・森里川湖エコツアーの実践支援
 - ・エコツーリズムガイドの養成
 - ・森里川湖ガイドブック等の作成
 - ・鈴鹿の森のライブ映像配信

活動拠点の施設について

- 鈴鹿の森の自然と歴史文化について体系的に学び、フィールドに誘う展示や事業を行うための施設を設置します。
- 立地場所は、「木地師やまの子の家」の敷地内を予定しています。

活動拠点を構成する機能



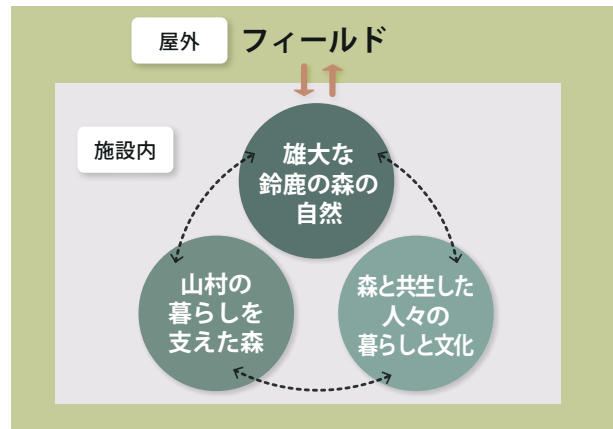
展示コンセプト

森と人との関わり

森
人との関わりによって
維持されてきた森

人
森の多様な資源を
いかした暮らし

展示構成のイメージ



目指す博物館像

森の文化博物館の
地域資源とフィールドを
活用した取組

社会課題・地域課題の共有

地域づくり
人づくり

自然環境の
保全

伝統文化の
継承

課題解決に向けた活動・取組

- ・ 森と人との共生
- ・ 持続可能な社会の構築

